

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2008, 2010～2011（2009 育児休業により中断）

課題番号：19720055

研究課題名（和文）身分的・空間的境界領域の人々の営みを中心とした近世和歌の文化史的研究

研究課題名（英文）A study of the cultural history of the early modern times 31-syllable

Japanese poem mainly on the working of the people of the spatial border domain of the social position

研究代表者

加藤 弓枝 (KATO YUMIE)

豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授

研究者番号：10413783

研究分野：日本近世和歌文化

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：御師 書誌学 近世文学 日本文学 データベース 日本文化 和歌文学 非蔵人

### 1. 研究計画の概要

前近代の日本人にとって、和歌詠作とはいったいどのような意味を持つ行為であったのか、どこには近代的な文学創作の範疇を越えた、文化的な意味があったのではないか。このような問題を解明すべく、本研究に取り組んでいる。和歌文学史の研究は飛躍的に進展したものの、従来の和歌文学研究では、歌壇の動向や歌論・和歌の注釈などがその中核をなしており、和歌詠作の具体的な実態については未だ十分に解明されているとはいえない。千年以上に及ぶ和歌の歴史の中で、当然ながら近世期については、詠作に関わる文献資料が大量に残されており、その実態を探るのには最も適した研究対象である。しかしながら、それら資料群は、あまりに膨大で未解明の部分が大きい。膨大に残る資料群を何とか活用し、和歌詠作の実態や現場を具体的に明らかにすることが、本研究の大きな目的である。このことは、文学史のみならず、文化史的に見て意義がある。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 身分的・空間的境界領域の人々の和歌詠作現場の実態を明らかにしつつある。例えば、身分的境界領域にいた非蔵人の和歌詠作現場に関して考察し、非蔵人にとって和歌（風雅の道）は、あくまでも『官暇』に嗜むべき教養であり、公家たちのように、一種の職務として要請されたものでもなければ、地下人たちの多くのように、趣味や習い事でもなかった。そのことはかえって、公家たちのように伝統和歌に縛られることなく、比較的自由的な立場で、一方、人としての生き方に関わるような、純粹の教養として発展する可能性を、彼らの和歌は秘めていた可能性を明ら

かにした。

(2) 蘆庵文庫に収められる全資料の書誌調査を行い、その成果として『蘆庵文庫 目録と資料』（青裳堂文庫 2009）を刊行した。

(3) 非蔵人たちが行っていた書籍講というシステムについて明らかにした。この書籍講とは、非蔵人たちが毎月定額を積み立て、定期的を開いた会合で、購入した書物をクジ引きで所有者を決めるというものであった。彼らは和歌に関する稽古歌会を開いていたが、それに加え、当時高価なものであった書物を共同購入することで、非蔵人としての文化的地位の向上を目指していたことを明らかにした。その購入した書物リストや規定などを論文として発表した。

(4) 空間的境界領域にいた御師に関しても、彼らの和歌詠作現場の実態を徐々に明らかにしつつある。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）従来の研究とは異なる、和歌の独特なありようが浮かび上がらせることができつつある。和歌が千年以上も脈々と営まれてきたのは、公家や職業歌人のみならず、彼らのような人々の活動があったためである。その営為を解明することは、文学史のみならず、文化史的な意義も少なくない。

### 4. 今後の研究の推進方策

研究を進めていくなかで、上方のみならず江戸における文壇の様子を明らかにする必要性がでてきた。そのためとくに『非蔵人日記』や、『加藤枝直日記』類の翻刻を通して、おもに近世中期～後期における人的ネット

ワークの実態についても可能なかぎり明らかにしたいと考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①加藤弓枝「荷田家と小沢蘆庵」『新編荷田春満全集』第12巻・月報12、2010、査読無、3～4頁

②加藤弓枝・眞野道子「富加町郷土資料館蔵『万葉集管見』一解題と翻刻(上・下)一」『豊田工業高等専門学校研究紀要』第41・42号、2008・2009、査読無、193～222頁・217～242頁

③加藤弓枝「『書籍講』の成立とその背景—蘆庵文庫所蔵関連資料の翻刻と解題」『金城日本語日本文化』第85号、2008、査読有、61～80頁

④加藤弓枝「小沢蘆庵の和歌指南—安永期の添削資料を中心に」『中世近世和歌文芸論集』思文閣出版、2008、査読無、346～374頁

⑤加藤弓枝「非蔵人と『書籍講』—蘆庵門藤島宗順の営為を中心に—」『鈴屋学会報』第25号、2008、査読有、63～82頁

[学会発表] (計5件)

①加藤弓枝「小沢蘆庵と非蔵人の和歌営為—指導の実態とその影響—」、和歌文学会1月例会、2009.1.10、青山学院大学

②加藤弓枝「『書籍講』の成立とその背景—近世後期非蔵人による営みを中心に—」、第42回書物・出版と社会変容研究会、2008.11.1、西尾市岩瀬文庫

③加藤弓枝「小沢蘆庵の文芸活動」、鈴屋学会第25回大会、2008.4.20、本居宣長記念館

④加藤弓枝「身分的境界領域の人々の和歌営為—蘆庵門人を中心に—」、東海近世文学会、2008.4.12、熱田神宮文化殿

⑤加藤弓枝「宣長の和歌指南—添削資料は面白い—」宣長十講、2008.1.15、本居宣長記念館

[図書] (計2件)

①飯倉洋一・大谷俊太・加藤弓枝・神作研一・盛田帝子・山本和明、青裳堂書店、『日本書誌学大系98 蘆庵文庫 目録と資料』、2009、全802頁

②日下幸男・安井重雄・阿尾あすか・長谷川千尋・長谷川薫・大谷俊太・岡本聡・藤本孝一・海野圭介・小高道子・西田正宏・神作研一・盛田帝子・久保田啓一・中川豊・加藤弓枝・万波寿子、思文閣出版、『龍谷叢書15 中世近世和歌文芸論集』、2008、346～374頁(全401頁)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]